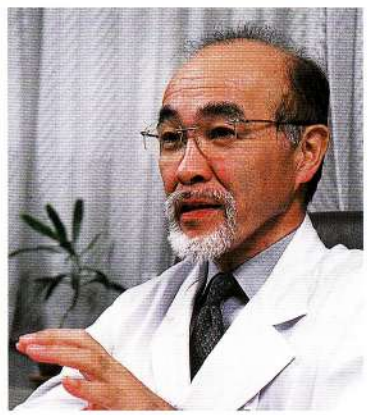
2005
No.1
May

メディカルネットワーク

発 行 東京女子医科大学附属第二病院　〒116-8567　東京都荒川区西尾久2-1-10
電話03-3810-1111　ＦＡＸ03-3894-0282　http：//www.twmu.ac.jp/DNH/index.html.

ご 挨 拶



東京女子医科大学
附属第二病院

病院長　井上　和彦

第二病院（本年１０月１日に東医療センターに改称予定）は７１年前の１９３４年（昭和９年）７月１日に東京女子医学専門学校尾久病院の開設により始まりました。１９３６年（昭和１１年）４月に名称が「東京女子医学専門学校第二病院」と改称されました。

その後先輩の叡智と努力により、着実なそして大きな発展をしてきました。

そして発展し続けています。現在の診療科は内科（大学としては画期的な分割されない単科であり、患者様をトータルに診療しています）、精神科（心の医療科と呼称してイメージを変える努力を行っています。外来診療のみ）、小児科、外科（大学では画期的な分割されない単科であり、消化器、乳腺を中心に、患者様をトータルに診療しています）、整形外科（リウマチ科を併設しています）、形成外科（美容外科を展開しています）、脳神経外科、心臓血管外科（呼吸器外科を併設しています）、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、（周産期新生児部門を併設しています）、眼科、耳鼻咽喉科、放射線科、麻酔科（ペインクリニックを併設しています）、救急医療科、歯科口腔外科があります。



外来棟

中央部門としては救命救急センター、救急診療部、検査科、病院病理科、輸血部、在宅医療部、リハビリテーション部、血液浄化部、地域連携室、ＭＥ室、薬剤部、看護部、医療安全対策室、卒後臨床研修センター、事務部、安全衛生管理室、医療情報映像室があります。

当院は平成１６年３月に東病棟（３４３床）が新築され、病院の大部分が近代化されました。画像診断棟が新築され、最新のＭＲＩも導入されます。１号館の内科、小児科そして皮膚科の病棟と整形外科、小児科、耳鼻咽喉科そして皮膚科の外来が改築され、ＣＴ室が移動し、最新のＣＴが１台導入されます。そして、内視鏡センター（仮）と物流センターが新築されます。

その後も１、２、３号館を解体し、新病棟、新事務棟を建築するまで、今後約１０年にわたって工事が行われます。その点当院はいつもどこかで工事があり、ご来院の皆様には何かとご迷惑をおかけすることがあることを、あらかじめお詫びもうしあげます。より良い、より安全な医療を目指して最大級の努力を致します。

ご支援をよろしくお願い致します。



東病棟

東病棟ご紹介　外科部門

外科 助教授　清水 忠夫



昨年３月オープンした東病棟は、旧病棟（１号館)からみると巨大な客船さながらの概観です。

１号館と渡り廊下でつながり、向かって左をＡ病棟、右をＢ病棟と言います。

救急救命センター、手術室・ＩＣＵを備えた外科系診療科中心の病棟で、新たに周産期センターが開設されました。地域周産期医療の中核として期待されています。

外科病棟は４階にあります。Ａ病棟に５５床、Ｂ病棟に１６床の計７１床を有しています。病床数が１７床増えたことから、疾患別に食道・門亢症、胃、肝・胆道・膵、大腸・肛門、乳腺の５班体制でより効率的に専門性を高めた分かりやすい診療に努めています。

他の病棟は、図に示したごとく、１階に救命救急センター２０床、２階に産婦人科５９床・周産期センター１８床、３階がＡ病棟に泌尿器科１８床、耳鼻咽喉科１７床、眼科１２床、形成外科９床、Ｂ病棟に整形外科３９床、救急医療科１０床となっています。４階は外科と脳神経外科２９床、５階には心臓血管外科２８床、歯科口腔外科５床、ＩＣＵ８床があります。手術室は７室で、旧病棟からみればその環境は著しく快適になりました。

昨年度の手術件数は外科６８５件、整形外科６１１件、眼科５７６件、泌尿器科３２５件、耳鼻咽喉科３０９件、形成外科２３３件、産婦人科２３１件、心臓血管外科２２３件、産科１６２件、脳神経外科１５７件、



手術室

その他１７６件で計3,６８８件でした。そのうち緊急手術は５６５件ありました。

ほぼ手術室はフル稼働ですが、安全な医療が提供できるようスタッフ一丸となって安全管理につとめております。

最後に、夜間・休日の外科系一次・二次救急を外科系全科で対応する体制をとっていることをお知らせいたします。

研修指導医当直というかたちではじめて１年ですが、試行錯誤を繰り返しよりよい体制で地域医療に貢献していきたいと存じます。

今後も病診連携に努めてまいりますので、皆様のご指導ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。

（東病棟各科案内図）

	A	EV	B
5F	心臓血管外科(２８) 歯科口腔外科(５)		手術部 ＩＣＵ(８)
4F	外　科(５５)		外科(１６) 脳神経外科(２９)
3F	泌尿器科(18) 眼科(12) 耳鼻咽喉科(17) 形成外科(9)		整形外科(３９) 救急医療科(１０)
2F	産婦人科(５９)		周産期センター ＮＩＣＵ(6) ＧＣＵ(１２)
1F	栄養課・厨房 職員食堂		救命救急センター(２０) 救急外来
B1	薬剤部		病院病理科 血液浄化部 輸血部

看護部門

看護部 副部長　立石 早苗



待望の東病棟が開設されて早くも１年が経ちました。東病棟を紹介致しますと地下１階地上５階の建物は南北に１２０ｍと長く、隣接した宮前児童遊園地から眺めると雄大で壮観な建物です。

病棟を訪ねてまず一番に感じるのは長い廊下です。働く者にとっては導線が長くなりましたが、その長さが広々とした空間に感じられます。

私たち看護職員は、病室は患者様の生活の場として安全で快適であることを念頭に準備しました。

患者様が１日の大半を過ごされるベットは低床２５㎝の電動ベットに体圧分散マットレスです。ベット周囲の備品もテレビとキーボックス付き床頭台等使用される側の身になって整えました。デイルームには冷蔵ロッカーやインターネットコーナーも設けました。

またどこにいても対応できるナースコールや他の部署間との物品の搬送にメッセンジャーを配置するなど従来のシステムを改善して、導線の長さが看護サービスの低下にならないように配慮しました。他の施設面ではまずこれまで狭い場所で、やりくりをしていた中央材料部が一新された事です。スペースもさることながら多層式洗浄器・両面開きのオートクレーブ・プラズマ滅菌機を設置したことです。

手術室や病棟・外来で使用された医療器具は一次消毒する事なく密封コンテナで中央材料部へ搬送すれば多層式洗浄器で洗浄してセットし滅菌して払いだされるシステムで、安全且つ効率のよい方法へと変更になりました。その中で私達看護職員は立派になった建物に劣ることがないよう「病院の顔は看護師である」と自負し、看護ケアの向上をはかり個々の患者様に満足していただけるようなきめ細かなサービスを提供して、ますます地域に信頼、愛される病院になる努力を続けて行きます。

周産期センター

産婦人科教授・周産期センター長　　高木 耕一郎



当院周産期センターは平成１６年４月１日に新しく建築された東病棟２階に開設されました。同年９月１日からは東京都の地域周産期母子医療センターとしての認可を受けたことにより、本学は河田町の女子医大母子総合医療センターとともに、大学病院で唯一、総合周産期センターと地域周産期センターの両方をもつことになりました。当院は歴史的には戦後数年して始まったベビーブームの頃に産院を中心に発展し、尾久産院の名前で親しまれて来ました。その後も男性医師中心の産婦人科の世界の中で、女性医師を中心に、きめ細やかな妊婦分娩管理で定評をいただいてまいりました。当院で出産される方は荒川区、足立区、北区からいらっしゃる方が多いのですが、当院は総合病院であることから、これまでも妊婦高血圧症候群や切迫早産、糖尿病合併妊婦などハイリスク妊婦の患者様が多く、当科で妊婦の管理をしても、早産となりそうな場合には、母体搬送といって出産前に、周産期センターを持った他の医療施設に移っていただかなくてはならないこともしばしばでした。しかし、この度の周産期センターの開設により、私共の施設において、他科との密なる連携のもとに継続的な母児管理が出来るようになったので、今まで以上に地域のニーズに応えることが出来るようになりました。周産期センターは母性部門（産婦人科の産科部門３０床）と新生児部門からなります。新生児部門は、当院小児科の協力を得て、ＮＩＣＵ（重症ベット６床、後方ベット１２床）を擁し、早期産で生まれた小さな赤ちゃんや病気を持って生まれた赤ちゃんに最新の医療を提供する部門です。当院の周産期センターは、母子の幸せを願って産科医・小児科医（新生児部門）が忌憚なく意見を交わすという周産期医療の原点に立ち返り、毎週１回、定期的に開催される周産期カンファランスの場で互いを切磋琢磨しつつ、地域の皆様に愛されるセンターを目指しております。



周産期センター

ＩＣＵ

麻酔科教授・ＩＣＵ部長　川真田 美和子



７年ほど前、当時使用していた回復室を改装して呼吸器、循環モニターなどをそろえＩＣＵとして始まりました。利用する科は外科系が多く、そのほとんどが術後患者で占められておりました。

ちょうど１年前、新しく東病棟が出来たとき、手術室と並んでＩＣＵを設置し、将来性を考慮してベットを３床増設して新たに開設しました。

最新式の人工呼吸器を３台、循環モニターも増やし、術後の患者様だけではなく、内科系の患者様も受け入れ、呼吸不全、急性虚血性疾患など幅広い患者様の管理が行えるようになりました。ＩＣＵを管理する医者も必要になり、現在、麻酔科から専門医を２名さらに臨床工学技士１名を常駐させております。ＩＣＵの看護師も呼吸循環管理にずいぶん慣れてきて軌道に乗っている状況です。８床のうち、１床は個室になっており、感染あるいは、長期滞在などに使用しています。

今のところ、ベット使用率は、８０～８５％でもう少し上げたいのですが、ＣＣＵの機能もあることから、いつでも受け入れられる体制があることを強調して、皆様のお役に立ちたいと思っております。

卒後臨床研修医

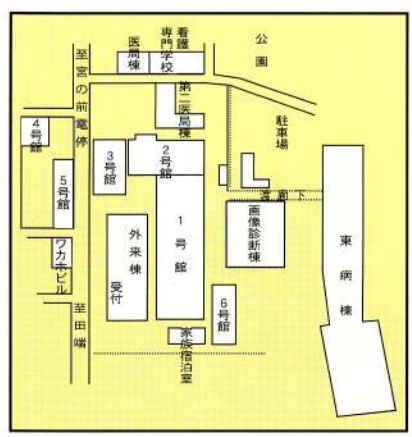
平成１６年度から卒後臨床研修医制度が始まりました。当院でも一年次１８名、二年次１８名が現在研修に励んでおります。

地域連携室に関するお問い合わせ先

室　　長　小児科教授　杉原　茂孝　　担当者　古賀三枝子・佐藤さみ子
代表電話　０３-３８１０-１１１１　内線４４５１　　ＦＡＸ　０３-３８９３-０７７２
※ 当院専用の診療情報提供書（紹介状）用紙をお送りさせていただいております。
※ ＦＡＸにて診療申込受付が出来ます。　※ インターネットからダウンロード出来ます。
http：//www.twmu.ac.jp/DNH/annai/gairai/dl/sinryoumousikomi.pdf

病院案内図・病棟案内図





お知らせ

第６回「東京女子医科大学附属第二病院フォーラム」

日時：平成１７年７月２日（土）午後３時より（予定）
場所：東京ドームホテル　文京区後楽１-３-６１
　　ＴＥＬ０３－５８０５－２１１１
講演：「事例からみた医療安全」
シンポジウム：「院内感染とその対策」
お問い合わせ先：地域連携室　内線４４５１又は
　　業務管理課　内線４４３３
　　詳細はホームページに掲載予定

編集後記

いよいよ当院においても広報誌を発行することとなりました。これからは地域の患者様、地域の医療機関様に開かれた病院として、積極的に病院情報の発信をしていきたいと考えております。

病院長の挨拶のとおり、今後約10年にわたって工事の連続でございます。職員一丸となってきめ細やかなサービスを提供し、皆様に信頼される病院を目指します。

本誌は当面年２回の発行を予定しております。何かと至らない点があるかと思いますが、今後とも宜しくお願い申し上げます。

誌面のカトレアは東京女子医科大学のシンボルの花です。

次回の発行は、平成１７年１１月を予定しております。（地域連携室　古賀）